

先天梅毒診療の手引き改正を目的とした妊婦梅毒および出生児の梅毒診療実態の全国調査

1. 研究の対象

2015年1月～2024年8月末までに先天梅毒が疑われた児及びその母親が対象となり、各施設への調査を依頼した時点までのデータを後ろ向きに収集する予定です。

2. 研究目的・方法

現在、梅毒は世界中で流行しており、日本国内でも急増しています。母が妊娠前や妊娠中に感染し適切な治療が行われていないと、母体から胎児に感染することがあり（先天梅毒）、感染した児も適切に治療されないとさまざまな症状をきたします。成人での流行に伴い、先天梅毒の報告も増加傾向であり、日本小児感染症学会が主体となり、関連学会の参画・協力のもと、「先天梅毒診療の手引き 2023」が作成されました。

本研究では、梅毒合併妊婦から出生した児及びその母の臨床情報を収集し、現行の手引きの妥当性を検証することでより適切な手引きに改定することを目的としています。

方法は、全国の周産期・小児施設から先天梅毒を疑う症例及びその母の臨床情報の提供を受けて行います。慶應義塾大学が研究事務局となり情報の取りまとめを行いますが、個人を特定できる情報は削除した形で情報の提供を受けて解析を行います。

研究期間：研究実施許可日～2027年12月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

先天梅毒が疑われた児及びその母の臨床情報（性別、年齢、病歴、臨床症状、検査結果、治療内容など）を診療録から入手します。

なお本研究は、日々の診療記録、検査データを解析する研究ですので、この調査のために追加で行う検査や治療などはございません。

4. 外部への試料・情報の提供

代表機関へのデータの提供は、個人が特定できないよう匿名化した臨床情報を、特定の関係者以外がアクセスできない状態で電子的配信します。

5. 研究組織

研究代表機関
慶應義塾大学

研究代表者
専任講師 新庄正宜

共同研究機関

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯免疫
難病学講座/聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・
アレルギー内科

愛知医科大学医学部小児科学

千葉大学真菌医学研究センター 感染症制御分野

あいち小児保健医療総合センター 総合診療科

川崎医療福祉大学医療福祉学部 子ども医療福祉学科

藤沢市民病院臨床検査科/感染対策室

札幌医科大学医学部小児科

国立成育医療研究センター感染症科

千葉県こども病院 感染症科

浜松医科大学小児科

長崎大学医学部小児科

国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター

研究責任者

教授 森雅亮

教授 伊藤 嘉規

教授 石和田稔彦

医長 伊藤健太

特任教授 尾内一信

診療科部長 清水博之

教授 津川毅

医長 船木孝則

部長 星野直

教授 宮入烈

教授 森内浩幸

第四室長 山岸拓也

既存情報の提供機関

宮城県立こども病院 リウマチ・感染症科

さいたま市立病院周産期母子医療センター

地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医
療センター 感染免疫・アレルギー科

東京歯科大学市川総合病院 小児科

聖マリアンナ医科大学病院 小児科

東京都立小児総合医療センター 感染症科

独立行政法人国立病院機構東京医療センター 小児科

神奈川県警友会けいゆう病院 小児科

川崎病院 新生児内科

横浜市立市民病院 小児科

岐阜大学大学院医学系研究科 感染症寄附講座

大阪市立総合医療センター 感染症内科

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小
児感染症内科

氏名

部長 桜井博毅

診療部長 池田一成

医長 古市美穂子

部長 福島裕之

准教授 勝田友博

医師 舟越葉那子

医員 前田直則

部長 津村由紀

部長 森和広

科長 松崎陽平

特任教授 手塚宜行

医長 中河秀憲

医長 張慶哲

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：

川崎市立川崎病院 新生児内科

部長 森 和広

住所：川崎市川崎区新川通 12-1

[TEL:044-233-5521](tel:044-233-5521)（代）

-----以上